

室蘭工業大学-学報

NO.643



入学宣誓式の様子
(1ページに関連記事あり)

2023年 5月号

目 次

◇ トピックス ◇

令和5年度 入学宣誓式を挙行	1
第31回テクノカフェを開催	3
HBC宇宙チャンネル「宇宙とSDGsパネル展」に参加	4
寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」の年度末報告会を開催	5
THE日本大学ランキング2023で131～140位にランクイン！	6
タイ・マハーサーラカム大学訪問団が来学	7
2023年度第1回異分野融合セミナーを開催	8
令和5年度事務職員基礎知識習得研修を実施	9
室蘭市消防本部との消防総合訓練を実施	10
伊達開来高校と高大連携に関する協定を締結	11
新入生向けサークル紹介を開催	12

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ	13
受託研究等の受入れ	14
その他の補助金の受入れ	15
奨学寄附金の受入れ	16

◇ 人 事 ◇

人事異動	17
表彰	18

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催	19
-------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事	20
学外行事	20

令和5年度 入学宣誓式を挙行

理工学部第5回、大学院博士前期課程第59回及び大学院博士後期課程第34回入学宣誓式を、4月5日(水)本学体育館において挙行了しました。

今年度は4年ぶりに保護者の参列のなか学部と大学院に分けて入学宣誓式が行われ、空閑学長から次のとおり告辞が述べられました。

告辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長年にわたり勉学の環境を整えられ、本人たちの努力を支えてこられたご家族ならび関係者の方々にも、心から敬意とご祝辞を申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で学部と大学院を分けた入学宣誓式となりました。理工学部及び大学院入学の皆さん、そして晴れ舞台となる入学宣誓式を心待ちにされていた、ご家族をはじめ関係者の皆さんにも4年ぶりにご出席いただくことが実現し、大変嬉しく思います。

本年度入学者は、理工学部学士課程の635名、編入学生43名、大学院博士前期課程239名、博士後期課程9名、合わせて926名の皆さんです。今年はコロナ禍の影響も大きかったと推察されますように、海外からの留学生は学部には16名、大学院は18名、合わせて34名とコロナの影響が殆どなかった3年前の52名と比べるとやや少ない人数となっています。

本年度の理工学部(昼間コース)4月入学者の一般入試の志願倍率は、手元にデータがある過去20年間の中で最高の倍率となりました。詳しい分析はこれからですが、道外志願者の増加が大きなライジングフォースとなっています。入学生の皆さんの出身高校から見た道内外の比率も、今年は道外比率が過去最高で40%を初めて超えて43.4%となり、また高知県、島根県、長崎県を除く、44都道府県という全国各地から入学いただいています。また、学部入学者中の日本人の女子学生の皆さんの人数も初めて100名(昼間98、夜間主2)、16.1%に達し、過去最高の数字となっています。

なお、本学の留学生の諸君の総数はこの4月で169名となっており、教室に、研究室に、大学のキャンパスのあちこちにグローバルなダイバーシティにあふれた環境を有する大学となっています。

さて本日は、現在本学が取り組んでいる教育改革など

ホットなニュース、そして皆さんが本学在学中にどのようなことを心がけるべきか、身につけるべきかについて、私からの期待を述べさせていただきたいと思います。

本学は北海道、室蘭に位置する国立の工業大学として、北海道の課題解決は、日本の、さらには世界の課題の解決につながると考えて、教育改革・大学改革に取り組んでいます。理工学部においては、ICTやAIの本質を理解して使いこなし、もの・価値づくりに貢献できる学生諸君を育てる工業大学ならではの情報教育を推進しています。全学必修の手厚い情報教育を行うことで、令和3年度には文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(DS)の認定を得ています。また昨年10月には、本学の図書館が大改修・増築を終え、本学での教育のDXの象徴として新装オープンしています。自慢の図書館ですので、皆さん是非、大いに活用して、積極的に勉強に、そして学生諸君のコミュニケーションの場としてご利用ください。

さて、皆さんはどのような目標・目的をもって室蘭工業大学に入学されたことでしょうか？

毎年申し上げていることですが、学部入学の皆さんはこれから貴重な4年間、大学院博士前期課程、後期課程の皆さんはそれぞれ貴重な2年間、3年間は是非とも有効に使ってください。本学で大いに学び、伸びしろを大きく大きく作りましょう。本学は、国立の工業大学ならではの情報技術を全ての学生諸君に身につけることができるようにカリキュラムを用意しております。そこでは本学の優秀な教授陣が書き下ろしの教科書を作成して皆さんをお待ちしております。皆さんが自ら確保した貴重な時間の計画と夢を持って、activeに授業に臨んでください。

大学院博士前期課程においても、情報系の共通の必修科目、そしてコースごとにその特徴を活かした情報科目の充実を目指した改革を行なっています。

さて、学校推薦型選抜入試や総合型選抜入試で入学した皆さんには、入学前学習の勧めの際に、すでに申し上げておりますように、大学での充実した4年間のキャンパスライフとするために、最も重要なことは、「ものごと何でも最初が肝心」、スタートダッシュが大事ということです。最初の1年を順調に乗り切ると、残り3年間も安定した学生生活を送ることができる確率が大幅に高くなります。これは統計的なevidenceに基づいた確かな話です。入学時から卒業時にいたるまでの皆さんの大学

トピックス

での成績を統計的に見てみると、本学に限らず、実は入学試験そのものの成績と卒業時の成績にはあまり相関はありません。ところが、1年終了時の成績と卒業時の成績にはかなり強い相関があります。1年生の時から自分のこれまでの人生を振り返り、その上で4年間の学生生活の目標をぜひ設定し、達成するための計画を立てて臨んでください。学生時代は、まじめに、真摯に取り組む姿勢、心構え、すなわち努力する姿勢が大変重要です。

また、これは先月の学位記授与式でも述べましたように、私は本学の強みは、「確かな研究力をベースとした教育力」にあると強く信じています。「確かな研究力」というのは、世界に通用する、すなわち世界水準の研究力ということです。主に研究力の観点から、THEの世界大学ランキングには、国立大学は57校がランクインし、本学は5年連続のランクイン（1501+位）となりました（2022.10発表）。さらには、QSアジア大学ランキングにおいても、本学は2年連続でランクイン（451～500位）しました（2022.11発表）。この2つの世界の代表的大学ランキングにランクインしている大学は、道内では本学と北海道大学の2大学のみであり、本学教員の研究力が光っています。また本学卒業生の企業からの評価も高く、企業の人事担当者から見た大学イメージ調査においては、北海道内の大学で第3位となっています（日経HR2023版）。自分の子どもに入学してほしい大学ランキング、北海道・東北地域で第5位（朝日新聞出版「AERAムック」大学ランキング2023）。まさに、エビデンスに基づいた「確かな研究力をベースとした教育力」の成果のひとつだと考えます。

皆さんは、本学に日本1、2位を競う研究分野があることをご存知ですか？本学は、朝日新聞出版社の大学ランキング（2019～2023年度版）によるとコンピュータ科学分野の論文1報あたりの被引用指数（他の研究者の参考となり論文の質が高いことになる）では、5年連続で日本1、2位を競っています。この素晴らしい研究力を活かすために、この4月から「コンピュータ科学センター」を設立し、世界トップレベルの研究をスタートさせました。センター長は最近4年間で3回も世界の情報系でHighly Cited Researcher（発表した論文が他の研究者から高く引用されている、参考とされている研究者ということで、世界的論文データベースの分析リーダーカンパニーの一つであるクラリベイト社が選出しているもので、情報系では日本からは年間3、4人しか選ばれていません）、これに選出されている、若手の女性の太田香教授です。皆さんも大いにご期待ください。

さて皆さんは理工系の国立大学と私立大学の大きな違いはどこにあるかご存じでしょうか？

本学も含めて理工系における国立大学の大きな特徴は、教員の優れた研究力を活かした大学院教育の充実にあります。我が室蘭工業大学大学院においても、この度は、

博士前期課程に239名、後期課程に9名の新入生を迎えました。私は、博士前期課程入学者が300人を超え、学部卒業生の50%以上が本学大学院に進む状況、すなわち、室蘭工業大学に入学した学生諸君は、本学の大学院博士前期課程（修士課程）へ進学するのが当たり前、普通となるような大学院大学を目指したいと強く願っています。学長としましては、先ほどから述べておりますように、本学教員の「確かな研究力」、すなわち、「世界水準の研究力に基づいた教育力」により、一層の大学院教育の充実を図り、そこで学ぶ学生諸君からも、優れた人材を求める企業、産業界からも魅力ある大学院教育を目指しています。

博士後期課程においては、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代研究者挑戦的研究プログラムの採択を得て、学生諸君の経済的支援や研究支援を大きく充実させています。このプログラムの採択も北海道内では本学と北海道大学のみとなっており、分野トップレベルの本学コンピュータ科学分野と、建築土木、機械航空、電気電子、物理、化学、生物など様々な科学技術分野との2つの分野を両輪とした異分野融合型の人材育成を加速させています。この、いわば、専門×情報という分野融合型の高度な理工系人材の育成は、本学においては、理工学部、大学院博士前期課程、後期課程を通じた、一貫した育成方針となっています。

本日、本学に入学された皆さんぜひ、我々室蘭工業大学の教員の研究力・教育力の優れたところを吸収して、世界で活躍する高度理工系人材の一員として育ててください。理工学部に入學したばかりの新入生には少々、気が早すぎるかもしれませんが、是非、本学の魅力ある大学院への進学も考慮に入れて、本学での学びを頑張ってください。以上、新入生の皆さんに私からの大学生活での心構えと期待を述べさせていただきます、入学宣誓式の告辞とさせていただきます。

令和5年4月5日

室蘭工業大学長 空閑良壽



入学宣誓式の様子

第31回テクノカフェを開催

令和5年3月25日(土)、紀伊國屋書店札幌本店1階インナーガーデンで、第31回室蘭工業大学テクノカフェ(主催:室蘭工業大学ものづくり基盤センター、北海道新聞室蘭支社)を開催しました。

今回は、株式会社カスタム取締役常務執行役員の戸田有紀氏をお招きして、『ロビンマスクの製造方法と秘

密』について、ロビンマスク製造に至るまでの経緯も含めて、室蘭工業大学の清水一道教授と語っていただきました。

また、午前中に行われたものづくり体験教室では、多くの親子が参加し、錫を使用したオリジナルキーホルダーづくりを楽しんでいました。



ものづくり体験で説明する清水教授



ものづくり体験の様子



ものづくりトークの様子



戸田有紀氏(左)と清水一道教授

HBC宇宙チャンネル「宇宙とSDGsパネル展」に参加

持続可能で活気ある地域づくりやSDGsに、宇宙開発が大きく貢献する「北海道のミライの姿」を分かりやすくパネルで紹介するイベント「宇宙とSDGsパネル展」(主催：HBC「HBC宇宙チャンネル 北海道から宇宙へ!」日時：令和5年3月25日(土)、26日(日))が開催され、航空宇宙機システム研究センターの内海センター長がスペシャルトークに出演しました。

「室蘭工業大学から宇宙を変える」をテーマとし、HBC糸賀舜アナとトークを繰り広げました。

内海センター長は「ロケットの打ち上げ、開発、人工衛星の開発など総合的な宇宙開発は北海道でしかできないと思う。オール北海道で、室蘭工業大学から宇宙開発を支えたい。」と熱く語りました。

また、宇宙開発や人工衛星からのデータがどのように活用されるのかを「農業」「漁業」「酪農」「林業」「防災」「暮らし」に分けた「宇宙とSDGs」パネル展示スペースでは、本学の航空宇宙機システム研究センターの活動について展示されました。



(左) HBC糸賀舜アナウンサー (右) 内海センター長



パネル展

寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」の 年度末報告会を開催

令和5年3月29日(水)に寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」の年度末報告会を対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しました。

本寄附講座は、ニューデジタルケーブル株式会社、太平洋興発株式会社、株式会社アクアジオテクノ、岩田地崎建設株式会社、特定非営利活動法人地下資源イノベーションネットワーク、一般社団法人北海道環境保全技術協会の6機関により、地方創生につながるハイブリッド石炭地下ガス化(H-UCG)の実証試験の実施及び未利用資源エネルギー等に関連する技術開発に資するため、平成31年4月1日から令和6年3月31日までの期間で設置されています。

報告会に先立ち、本寄附講座の研究協力者である北海道大学大学院工学研究院の児玉淳一准教授から「UCGの燃焼・ガス化空洞周辺炭層におけるき裂発生のプロセスとメカニズム」と題して特別講演がありました。

特別講演では石炭試料を対象に加熱・冷却試験を行い、石炭表面におけるき裂の発生・進展プロセスを解明し、その発生メカニズムに関して考察した結果などについて説明がありました。

その後、寄附講座の板倉特任教授から、「石炭採掘跡へのCO₂固定」プロジェクトの成果(三笠市事業)及び「木質バイオマスと未利用石炭の石炭地下ガス化によるCO₂フリー水素サプライチェーン構築に関する調査」(NEDO)、2022年度の活動概要及び来年度の計画について報告がありました。

本寄附講座の研究成果は、政府が掲げる2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて、地域の脱炭素化のための研究成果の社会実装や、地域と大学の連携促進に貢献するとともに、新たなビジネスモデルを生み出すことが期待されています。



講演する児玉准教授



説明する板倉特任教授

THE 日本大学ランキング2023で131～140位にランクイン！

令和5年3月23日(木)、THE 日本大学ランキング2023が発表されました。

イギリスの高等教育専門誌Times Higher Education (以下「THE：ティー・エイチ・イー」)は「THE 日本大学ランキング2023」を発表し、本学は、総合131-140位にランクインしました。

室蘭工業大学はこれからも工業大学としての教員の確かな研究力と延べ40,000余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系

学生の育成に邁進します。

* 「THE 日本大学ランキング」は、THEとベネッセグループが大学の教学改革やグローバル化の推進を目的に公表するランキングです。ランキング指標となる「教育リソース」、「教育充実度」、「教育成果」及び「国際性」の4分野によって大学の「教育力」を測定し、今回は271大学がランキング対象となりました。

タイ・マハーサーラカム大学訪問団が来学

令和5年3月30日(木)にタイ・マハーサーラカム大学から訪問団25名が、今後の両大学間の学術交流の可能性について協議を行う目的で本学を訪れました。

今回の協議で、両大学における海外大学との交流状況

を確認した後、本学との学術交流協定締結について興味を示していただいていることを確認し、今後も引き続き協定締結の可能性について協議していくことに合意しました。



協議の様子



キャンパスツアーの様子



マハーサーラカム大学訪問団と本学関係者

2023年度第1回異分野融合セミナーを開催

2023年度の異分野融合セミナーの第1回目を、4月17日(月)に教育・研究8号館R205室で開催し、約57名が参加しました。今回は、産業技術総合研究所の藤原健氏を講師に招き、「From Computer Science to Radiation Detectors: My Journey as a Researcher」と題して、放射線測定器におけるデジタル技術を用いたイノベーション

の可能性について、最新の研究をわかりやすくご講演いただき、参加者は興味深く聴き入っていました。また、講演は英語で行われ、講演後の質疑応答では、会場の参加者からの質問に対して丁寧な説明があり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



講演する藤原氏



集合写真

令和5年度事務職員基礎知識習得研修を実施

令和5年4月、新規採用事務職員5名を対象とした事務職員基礎知識習得研修を実施しました。

本取組みは、事務職員として備えるべき基礎知識やスキルを習得させるために、総務広報課や研修に関する企画調整部門が計画・実施するもので、昨年度に引き続き2回目の実施となります。

研修講師は、大川事務局長、木幡教授（広報副室長）や各課事務職員等が担当し、「本学の広報」、「国立大学法人法基礎講座」、「Excelマスター講座」、「市内見学及

び白老実験場視察」など各種プログラムを中心に研修を行いました。

総務広報課に配属された芥川さんは「室蘭工業大学や室蘭市、法人文書作成講座などの知識を得たことでスムーズに業務を開始することができました。また、研修を通じて大学全体のことがよく分かりました。早く仕事に慣れ、立派な大学職員になりたいです。」と意気込んでおりました。



事務職員を講師とする日常業務講座



昨年度採用された職員を助言者とするExcelマスター講座



修了式での記念撮影

室蘭市消防本部との消防総合訓練を実施

令和5年4月20日(木)、室蘭工業大学教育・研究6号館K棟で室蘭市消防本部との消防総合訓練を実施しました。

この訓練は、春の火災予防運動(4/20~4/30)の趣旨徹底と防火意識の向上を図り、火災発生時における安全の確保と被害を最小限に防止することを目的としたも

のです。

訓練には教職員と学生合わせて50人が参加し、最初に本学の自衛消防組織による通報・初期消火・避難訓練を行い、その後室蘭市消防本部によるはしご車を用いた救助活動・放水訓練を行いました。



訓練の様子

北海道伊達開来高校と高大連携に関する協定を締結

令和5年4月25日(火)、本学と伊達開来高校は「高大連携に関する協定」を締結しました。

伊達開来高校は、スクールミッション「地域の高校として、地域と連携・協働しながら、グローバルな視点をもって地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど、伊達市及び西胆振の未来を創造する生徒の育成」の実現のため、より教育効果の高い特色ある教育活動の展開を目指しています。

また、令和4年度～令和6年度まで、文科省の事業である「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」の指定校となり、本学では、「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」の実施にあたって、「だてコンソーシアム」の参加を通して、これまで事業を支援してまいりました。

本事業は、生徒が設定した課題に応じて、継続的に専門家と研究協議を行い指導助言が受けられるよう、様々な高等教育機関等との連携体制を構築して新しい時代の学びを創造することを目的としています。

本学の指定校に対する事業支援として「ゼロカーボンいぶり」と連携した出前講義やフィールドワーク、「だて学」の指導助言を行い、今後、これまで培ってきた連携関係を一層発展させ、相互の発展とカーボンニュート

ラルの取組みに寄与することを目的としてこの度、協定を締結しました。

協定締結式では、藤村校長が、「特色ある教育の中心となる「だて学」において、室工大の高度で先進的な研究内容を生徒が深く学習できることは、伊達開来高校の教育活動の質を高めるだけでなく、高大接続による先進的な事例として北海道の高校教育の模範となり、大変嬉しく思っている。」と述べられ、空閑学長が、「確かな研究力をベースとした教育力による理工系分野での高度な人材育成が目標であること、この機会を契機に理工系分野の興味や関心を高めて理工系分野の進学者を増やしたいこと、また、今年度の入学者で女子学生の比率が過去最高で増えてきており、伊達開来高校の女子生徒に、理工系分野の進学を積極的にチャレンジしてもらいたいこと、本協定が双方にとって有意義なものとなることを期待している」と挨拶されました。

本学としても積極的に協力することを通じて、これまで培ってきた連携関係を一層発展させ、高大接続の新たな可能性を探り、理工系分野の興味や関心を高めて理工系分野へ進学する生徒が増加することにつながればと考えています。

本学と高校との協定は、今回が3件目となります。今後の取組みが期待されます。



室蘭工業大学空閑学長（左）と
北海道伊達開来高等学校藤村校長



協定締結式の様子

新入生向けサークル紹介を開催

日頃のサークル活動をアピールする場として、また、各活動における継続性の維持や新人発掘等の目的をもって、新たな仲間を自サークルに迎え入れる場として、新入生に向けたサークル紹介が令和5年4月15日(土)、16日(日)の2日間にわたって、本学N棟内各講義室で行われました。

サークル紹介は、例年、学生が主体となって行っている新入生向けの恒例企画です。

今年は約80のサークルが参加し、感染症対策を徹底しつつ、展示や動画による説明等、各サークルが様々な趣向を凝らして、参加者へ熱心に自サークルの紹介をしていました。

各サークルからの説明を熱心に聞いている新入生も多数見受けられ、中には20名ほどの新入部員を集めたサークルもあったようです。

なお、本学ホームページ上にサークル紹介誌を掲載していますので、ご興味のある方や各サークルの詳細等を知りたい方は、以下のURLからご覧ください。

・室蘭工業大学2023年度サークル紹介誌URL

<https://muroran-it.ac.jp/uploads/sites/5/2023/04/r5circlesyokai.pdf>



サークル紹介の様子

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 川村志麻	中小企業	1,001
もの創造系領域 准教授 安藤哲也	大企業	650
もの創造系領域 准教授 佐藤孝洋	大企業	500
もの創造系領域 准教授 佐藤孝洋	大企業	770
もの創造系領域 助教 藤平祥孝	大企業	780
もの創造系領域 特任教授 相津佳永	大企業	1,859
しくみ解明系領域 教授 岸本弘立	中小企業	1,950
しくみ解明系領域 准教授 飯森俊文	大企業	1,100
しくみ解明系領域 准教授 神田康晴	大企業	6,500
しくみ解明系領域 准教授 小林洋介	大企業	878
しくみ解明系領域 准教授 渡邊真也	大企業	585
合 計 (11件)		16,573

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 有村 幹治	公益法人等	2,500
もの創造系領域 教授 河合 秀樹	独立行政法人	6,063
もの創造系領域 教授 北沢 祥一	公益法人等	1,694
合 計 (3件)		10,257

その他の補助金の受入れ

事業名	研究代表者・職・氏名	事業元	金額(千円)
2023年度自転車等機械振興事業	もの創造系領域 教授 今井良二	公益財団法人JKA	4,955
令和5年度中小企業経営支援等対策費補助金(戦略的基盤技術高度化支援事業)	もの創造系領域 教授 内海政春	北海道経済産業局	41,134
2023年度自転車等機械振興事業	もの創造系領域 教授 水上雅人	公益財団法人JKA	4,600
官民による若手研究者発掘支援事業/マッチングサポートフェーズ/超音波推進力による液中自走式ロボット	もの創造系領域 助教 孔徳卿	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	2,000
2023年度自転車等機械振興事業	もの創造系領域 助教 湊亮二郎	公益財団法人JKA	14,844
2023年度自転車等機械振興事業	しくみ解明系領域 助教 鈴木元樹	公益財団法人JKA	1,896
合計(6件)			69,429

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
個人寄附者 (1件)	工 学 研 究 助 成	30
個人寄附者 (1件)	工 学 研 究 助 成	10
株式会社三共合金鋳造所	工 学 研 究 助 成	2,252
三菱製鋼株式会社	工 学 教 育 助 成	100
千代田工営株式会社	工 学 研 究 助 成	300
個人寄附者 (1件)	工 学 研 究 助 成	100
公益財団法人サントリー生命科学財団	工 学 研 究 助 成	1,000
NJT銅管株式会社	工 学 研 究 助 成	550
一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター	工 学 研 究 助 成	400
太陽誘電株式会社	工 学 研 究 助 成	500
一般財団法人北海道河川財団	工 学 研 究 助 成	1,500
ドーピー建設工業株式会社	工 学 研 究 助 成	500
株式会社リバネス	工 学 研 究 助 成	100
日本製鉄株式会社	工 学 研 究 助 成	500
団体寄附者 (1件) ※室蘭工業大学古本募金	図書館資料・設備の充実のため	13
合 計 (15件)		7,855

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和5年5月1日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉</p> 経営企画課係員（評価分析係）	大 友 健 豊	
令和5年5月1日	<p style="text-align: center;">〈配置換〉</p> 総務広報課係員（総務広報係） 経理課係員（経理係） 経理課係員（調達係） 入試戦略課係員（入学試験係）	芥 川 広 樹 安 彦 賢 練生川 潤 一 来 山 優 太	事務局付係員 事務局付係員 事務局付係員 事務局付係員
令和5年4月15日	<p style="text-align: center;">〈雇用期間満了〉</p>	浅 野 公 佑	大学院工学研究科 事務補佐員
令和5年4月18日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉</p> 大学院工学研究科 学術研究員 大学院工学研究科 技術補佐員	YILAGAQI 藤 井 まゆみ	

表 彰

本学・元理事の野口 徹先生が、令和5年春の叙勲において、瑞宝中綬章を受章しました。



野口 徹先生は、昭和43年3月に北海道大学大学院工学研究科修士課程を修了し、同年4月に北海道大学工学部講師として着任され、昭和45年10月に同助教授を経て、昭和56年6月に同大学より工学博士が授与され、平成元年4月に同教授に昇任しました。平成19年3月に同大学を定年退職後、平成19年4月より同特任教授、平成20年4月より同客員教授を経て、平成21年4月に本学理事に任命されました。平成24年3月の退職まで副学長、国際交流センター長、知的財産本部長を歴任され、大学運営に情熱を傾けると共に、本学の発展のために多大な貢献をされました。

本学名誉教授の杉山 弘先生が、令和5年春の叙勲において、瑞宝中綬章を受章しました。



杉山 弘先生は、昭和47年3月に東北大学大学院工学研究科機械工学第二専攻博士課程を修了し同大学より工学博士が授与され、同年4月に室蘭工業大学講師として着任され、昭和48年4月に同助教授を経て、昭和63年4月に同教授に昇任しました。平成11年7月から平成12年3月まで同学生部長、平成12年4月から平成14年1月まで同副学長を歴任され、平成22年3月の定年退職まで38年の長きにわたり、教育・研究に情熱を傾けると共に、本学の発展のために多大な貢献をされ、平成22年4月に室蘭工業大学名誉教授になられ今日に至っています。

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 3月24日～4月25日 >

開催日時 令和5年3月28日(火)
会議名 第35回役員会

開催日時 令和5年4月11日(火)
会議名 第1回役員会

開催日時 令和5年4月13日(木)
会議名 第1回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

開催日時 令和5年4月13日(木)
会議名 第1回教授会

開催日時 令和5年4月19日(水)
会議名 第1回学長特命連絡会

開催日時 令和5年4月20日(木)
会議名 第1回教育研究評議会

開催日時 令和5年4月20日(木)
会議名 第2回役員会

開催日時 令和5年4月25日(火)
会議名 第3回役員会

学内行事

- 3月29日(水) 寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」(オンライン・対面)
- 3月31日(金) 辞令交付・退職者表彰式
- 4月3日(月) 辞令交付
- 4月5日(水) 令和5年度入学宣誓式
- 4月6日(木) 室蘭工業大学初任教職員研修
- 4月17日(月) 2023年度第1回異分野融合セミナー
「From Computer Science to Radiation Detectors: My Journey as a Researcher」
- 4月20日(木) 消防総合訓練
- 4月24日(月) 学生の定期健康診断(28日まで)

学外行事

- 3月25日(土)～26日(日)
HBC宇宙チャンネル「宇宙とSDGsパネル展」(札幌市)

編集後記

◆ 前号からひっそり再開した編集後記です。お読みいただきありがとうございます。担当を交代しながら続けていきますので、よろしくをお願いします。

3月から4月にかけて、新型コロナウイルス感染症対策が急激に緩和されていき、良いのやら悪いのやらと思っていました。でも、入学宣誓式（学部と大学院で分けて挙げてした）で、全新入生が一同に起立する風景を見たときは、忘れかけていた感覚が呼び戻され、わたしの内側があふれました。

そんな、先月のトピックスをまとめている学報ですが、構成を見直そうとひっそり考えています。まだ何も決まっていません。ごめんなさい。写真が得意、文章が得意、デザインが得意な教職員の方、担当までご一報ください！

（Garoon：総務広報課総務広報係、E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp）

（総務広報課総務広報係）



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびよん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308